

# ちよこといっ話

## 第二二四 悩みは深し

2

台風二十四号の災害もですが九月二十八日に起きたインドネシア、スラウエシ島の地震災害は死者含め五千人余という大惨事でした。自然の猛威には太刀打ちできません。遭遇した時から苦難の道が待っています。ボランティアの身施しんせと国民の財施でなんとか立ち直るしかありません。娑婆しやばの生活で苦の無い方は百歳以上の人数より少ないでしょう。仏様は八万四千もの悩みを解決して下さるそうです。もちろん病氣も入れている話です。釈迦は苦を四つに分けました。一つ、生きていく為に伴う苦と、同じ生せいでも生まれ出る為いずに伴う因縁が容易では無い事。二つ、老いていく為に伴う苦。三つ、病に伏ふしていく苦。四つ、死んでいく為に伴う苦です。悩みの種類に応じて専門のドクター（佛様）が見える訳です。現代の医学も相当進んできましたが昔は結核が最大の病であったと思いますが今は忘れていくぐらいです。しかしながら依然として結核は残っています。どんなに医学が進歩しても病を追い越すことは不可能でしょう。と言うのも知り得た病しか対応できないからです。とにかく医者も病名を付けなくてはいけないので大変な仕事です。なかには現在神の手を持つお医者様も見えます。神様の生まれ変わりかもしれません。陽氣と陰氣。プラスとマイナス。表裏一体です。上手にバランスを取って紆余曲折うよよくせつしながら人生街道苦楽を共にしている訳です。自然と同じで気圧が上がっても下がっても良い事はありません。生きるための酸素と血、呼吸と血圧、酸素の供給が止まれば勿論血も動きません。持つて生まれた命は先祖代々の血統からくるものであり、血統を追求し理解を深める事が必要であると思います。精子と卵子が結合して血統を形成していきます。法律は別にして血統の無い方は御座いません。病は嫌いだからと言って逃れる事はできません。逆に病が好きだと言っても病に罹かかると言う訳でもありません。人間の力の及ばざるところです。故に、佛様の支配下にあるとしか思えないのです。自分は人生の試練と共に寿命も決められているとしか考えられません。運命だと事が起きてから思うより、天命を予知できれば開悟でき幸いなのですが、最後は、どんな方でも生まれたからには、皆ご臨終を迎える事に成る訳です。空海大師の師匠惠果大阿闍梨けいかだいあじやり 中国唐の時代の僧えんは永貞元年十二月庚戌かのえいぬ 十五日に遷化せんげ 住まいを極樂に移うつせす）されました。最後のお言葉が 早く郷国に帰ってもって国家に奉り、天下に流布りゅうふして蒼生そうせい（ひとびと）の福を増せ。云々。これすなわち仏恩を報じ、師恩を報ず。国の為には忠なり、家においては孝なり。義明供奉ぎみょうぶぐ 中国の弟子ここし ほ此処こゝにて伝えん。汝はそれ行きてこれを東国に伝えよ。と佛縁に従い真の法を継承けいしょうし、伝承でんしょうすべく、日本に帰国された事と存じます。老子によれば 氣を行ずるとは形を練ねることであり、呼吸を整え、身体を鍛錬たんれんすることに他ならない。これのできない者は弱氣になり、氣力が失せてしまうというのである。成る程、弱氣になると、声が小さくなります。声が小さくなるほど自信を無くしたり、病が重いと判断できます。元氣を出して大きな声を出し、病等やまいどうに打ち勝ちましょう。そして自身を取り戻しましょう。

元氣なれば感謝 合掌

三十年十月一日

善壽界善入院油掛地藏尊